

## 一人一人の適性に合う仕事を 周囲の理解で職場の空気が変わった



**淡路市 北坂養鶏場**  
代表  
**北坂 勝さん**

雇用



淡路市内の鶏舎で国産鶏にこだわり約10万羽を飼育、生活協同組合おおさかパルコープを中心に鶏卵販売。プリンの製造販売も。淡路市育波に直売所、淡路島内に6か所の鶏卵の自動販売機を設置。従業員40人。

2014年に最初に発達障害のある人が入社した当初は、「何度同じことを言っても覚えられない」など、周囲の人にとってストレスになったこともありましたが、「最初にラインで流れ作業をする選卵所の仕事を担当してもらいました。その後だんだんと覚えらる作業が増え、さらに彼の下に新入社員が入ってきたら、しっかりとしてきました」と北坂さん。シフトの工夫や周囲の理解が大きかったと言います。

2019年4月に採用した中の1人は、「ペースが他の人と違う」と感じ、自分のペースで働けるひよこを育てる仕事の担当に。また「以前は接客の仕事をしていましたが、最近は家に引きこもりがち」と知人に頼まれた人は接客の経験を生かして直売所で働いてもらっています。



ひよこや雛(ひな)の世話をする育雛(いくすう)

### 誰もが働きやすい職場環境に 仕事をマニュアル化して分かりやすく

障害のある人が仕事をするときには、健常者が一緒にシフトに入るなどの配慮も。「しんどそうなときは働く時間を減らします。心と体のバランスに合わせて、仕事をしてもらっています」と、目配り、気配りを忘れません。

「北坂養鶏場」では、誰もが働きやすい職場づくりをしようと、仕事のマニュアル化や分かりやすい表示を増やしました。2019年には5S活動として職場環境の整備に取り組んだ結果、従業員全員が意識して職場をよくしていこうという雰囲気になりました。「(発達障害の人への)声のかけ方など職場の空気が変わりました。最近は若い社員が増え、(発達障害の人)ができること・できないこと、を周囲が理解するようになりました」と北坂さん。「我々一次産業は求人難、来てくれる人はありがたいし、長く働いてもらえるように大切にしたいと思っています」。



選卵所内の様子

「北坂養鶏場」では、従業員40人のうち数人に軽度の発達障害があります。「通常の求人で雇用した2人は、しばらくしたら仕事が覚えづらなど、軽度の発達障害があることが分かりました。知人に頼まれて働いてもらっている人も含め、4~5人います」と代表の北坂勝さん。職場は養鶏を行う鶏舎、卵の洗浄・選別・梱包などを行う選卵所、卵を売る直売所と分かれ、それぞれに業務が異なります。発達障害がある人には一人一人に合う仕事を北坂さんが考え、担当してもらっています。

## 農業の新たな担い手を創り出す 障害者の自信や生きがい

# 農業と福祉の連携は今

「農業における労働力の確保」と「障害者の就労先確保」という課題を解決する農福連携の取組が注目を集めています。農業と福祉、双方がWin-Winの関係を築いている事例を紹介します。

## インターンシップ事業を契機に 障害福祉事業所に委託



**丹波篠山市 アグリヘルシーファーム**  
代表取締役  
**原 智宏さん**

施設外  
就労



丹波篠山でしか作れない農作物にこだわり、丹波篠山産コシヒカリや、特産の黒大豆、季節の野菜を栽培。個人客500人余りを持つ自社サイトを運営。栽培面積約80ha、役員3名、正社員6名、非常勤2名、繁忙期はパートも。

切り作業をしてもらいました。結果、障害者の人たちのできる範囲を見極め、特徴をつかんだら、農業に適していると判断。数人の障害者を施設外就労として受け入れることにしました。お願いしたい作業を始めに事業所の支援員に伝えると、支援員が利用者に指示を出してくれるため、社員が付き添わなくても作業を任すことができます。今後はさらに播種などの作業も増やしていく予定です。

※ネクステ：丹波市で生きづらく感じる人の就業サポートや生活サポートを行い、就労継続支援B型事業所「ニコマルプラス」などを運営



黒枝豆の枝切り作業

「アグリヘルシーファーム」代表の原 智宏さんは、社内に福祉関係の勤務経験者がいたこともあり、以前から農福連携に関心を持っていました。2021年10月「公益社団法人ひょうご農林機構」のインターンシップ事業を利用して、「ネクステ」の利用者に試行的に枝豆の枝

### 適性を見極めて、さまざまな農作業での 連携の可能性に期待

「利用者(障害者)の試行的な受け入れが重要でした。これで障害者の適性を見極めることができました」と原さん。黒枝豆の枝切りと運ぶ作業は適していましたが、選別作業はハードルが高かったとか。作業が丁寧すぎる時には、どこまでしたらいいのかを示すと、理解してもらえました。「作業の役割分担ができれば、社員がやれることが増えます。より内容の濃い仕事を社員にしてもらうと、会社として収益アップにつながります」。

秋の稲刈り・黒枝豆の収穫時期は忙しさがピークに達する同社。「今後は多くの障害者に、それぞれに合う方法で働いてもらいたい」と、農福連携拡大の可能性に期待しています。



丹波篠山の気候を生かしておいしい農作物を生産

令和4年3月  
発行

発行/兵庫県 農政環境部農政企画局 総合農政課  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10-1  
TEL.078-362-9216 FAX.078-362-4458

## こつこつと真面目な作業は戦力に



養父市のおおや高原で有機野菜を栽培する「アグリハイランド金谷」では、知的障害のある2人が週2回、農作業に従事しています。

1994年に同じ大屋町にある「社会福祉法人 さつき福祉会」に、職場実習の場所を提供したのが、きっかけ。車いすの重度障害者などの多くの方が利用した後、1999年に比較的農作業ができる4～5人に「さつき福祉会」の職員が1人同行して、「施設外就労での農福連携を開始しました」と代表の金谷 智之さん。2004年以降もその中から農作業に向いている2人に働いてもらっています。

※社会福祉法人さつき福祉会：養父市大屋町で障害者をサポートする生活介護事業所「おおや作業所」などを運営

**養父市** アグリハイランド金谷

代表取締役

**施設外就労** 金谷 智之さん



養父市おおや高原に合計38棟のビニールハウスで葉物野菜やミニトマトを有機栽培。冬は積雪のため4月～12月の期間だけ出荷。朝来市にもビニールハウス3棟（通年出荷）。従業員7名。



広いおおや高原のあちこちにあるビニールハウス

### 作業の単純化で、仕事を効率化 目標を明確にして達成感を得る

金谷さんは2人が仕事を覚えやすいように、工程ごとに作業を細かく分けて単純化し、役割を明確にするように工夫しました。結果、野菜の収穫や収穫が終わった野菜の片づけ、肥料まき、ビニールハウスの片づけなどを担当しています。さらに、1人は自ら危険を察知する危機管理能力も付き、手押し耕うん機の操作ができるようになりました。金谷さんはこつこつと仕事に真面目に取り組む姿勢を高く評価しています。

長く仕事を続けてもらうためには、「目標を明確化し、達成感を持たせることが大切です。同時に障害者と健常者を区別せず、同じように接するようにして、職場の一員として、やりがいを感じられるように工夫しています」。19年間も働いている方は、「ここで一番のベテランになりました。農作業は楽しい」と胸を張ります。



ハウス内での作業の様子

## 園芸療法を学び、農を通して植物と人が成長できる場に



三木市の「花卉園芸 長谷川」には、週3回神戸市北区の「NPO法人ひやしんす」から利用者3～4人が支援員と共に来て、土入れ・播種・定植・灌水・追肥などの作業を行っています。作業を見守る長谷川いづみさんは、2012年から2年間、兵庫県立淡路景観園芸学校園芸療法課程で学び、兵庫県知事認定園芸療法士の資格を取得。兵庫県園芸療法定着促進助成事業の一環として、2017年に「ひやしんす」で園芸療法を行いました。「植物との関わりを通して、利用者の皆さんの前向きな発言や姿勢が見られました」とひやしんす施設長も長谷川さんも共に園芸療法の可能性を実感。立位・座位・車いすでの作業を想定して3段階の高設ベンチを用意するなど体制を整え、同法人の施設外就労の場として同年10月から作業委託しています。

※NPO法人ひやしんす：身体・精神・知的障害者、高齢者が社会での役割を創出する活動を行い、就労継続支援B型事業所などを運営

**三木市**

**施設外就労**

**雇用**

花卉園芸 長谷川

長谷川 いづみさん

花壇苗を中心に周年栽培。実生、接ぎ木、プラグなどの野菜苗や山田錦などの水稲も栽培。  
施設園芸3500㎡、水稲3.6ha。従業員3名。



ポットに花苗を植え付ける作業



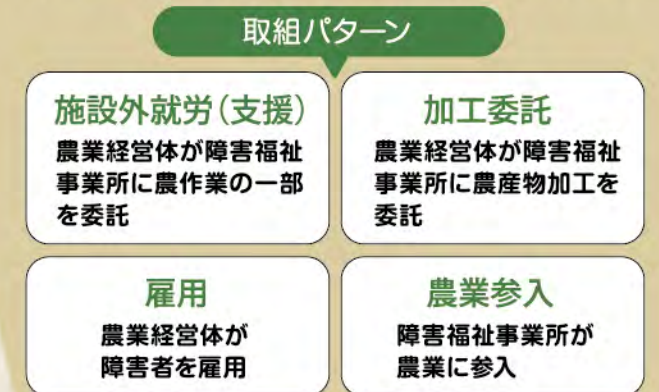
敷地内にできた「グローイングスペース」 「さまざまな人が園芸を体験し、心身にプラスの効果がある場所になってほしい」と、長谷川さんの思いが込められています。

### 年間を通して一定量の作業を提供 任せられることが増え、成長を実感

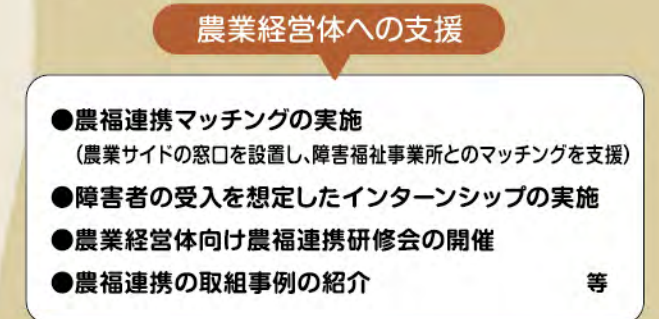
農閑期でも受け入れられるよう工夫し、年間を通して一定量の作業を提供。毎回の作業では、農機具などをきちんと管理し、けがのないように注意。「個々の能力や特性に応じた作業を見極め、何よりも「意欲を持ってもらうこと、が重要」と言います。いろいろな課題については月に1度、ひやしんす施設長とミーティングを持ち、解決策を検討・実践しています。

「わかりやすい作業は徐々に任せられるようになった」と、作業に当たる彼らの成長を感じる長谷川さん。施設外就労として通っていた1人はパート雇用に。機械を使う草刈りも任せられるようになりました。「人手不足を補うことだけが目標ではなく、農業を通じて成長し、彼らが次に進むステップの場所になってほしい」と、温かく見守ります。

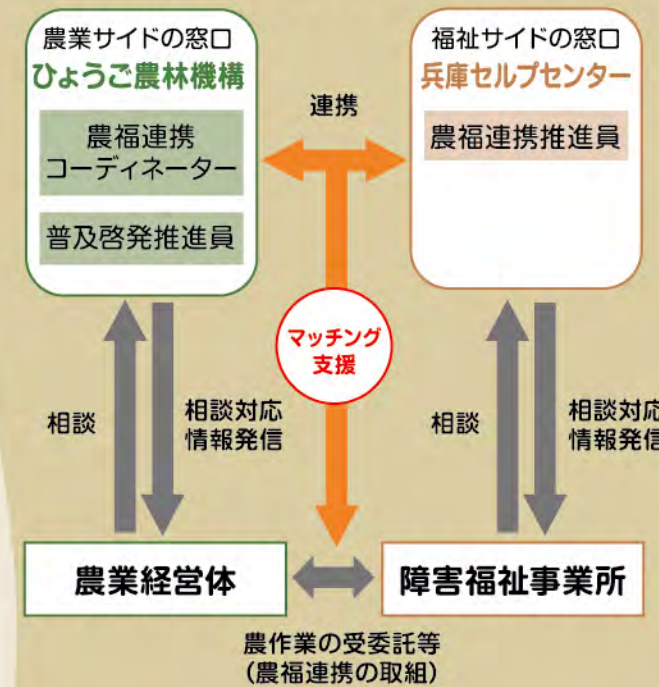
○農福連携には、いろいろなパターンの取組があります。



○兵庫県では、農福連携の推進に向け、様々な支援を行っています。



○農業経営体と障害福祉事業所をマッチングする相談窓口を(公社)ひょうご農林機構(農業経営体向け)とNPO法人兵庫セルフセンター(障害福祉事業所向け)に設置し、両者が連携してマッチングを推進しています。



農業サイドの窓口  
公益社団法人 ひょうご農林機構 TEL.078-361-8131

福祉サイドの窓口  
NPO法人兵庫セルフセンター TEL.078-414-7311

■施設外就労：企業などの業務の一部を事業所が請け負い、事業所職員の支援のもと施設利用者が企業内で行う作業